



▲頭陀寺(浜松市南区)



▲松下屋敷跡(頭陀寺城跡)

History 新野左馬助親矩

キラリを再発見

特別編

新野松下家の祖平八

現在、新野左馬助親矩^{ちかのり}公墓所の地主で、管理をしている松下家は、浜松市の頭陀寺城主松下加兵衛之綱や井伊直政の母の再婚相手である松下清景(之綱のいとこ)の一族で、縁あって新野に所領を得た松下平八の子孫とされる。

「松下家系図」によれば、松下平八は、新野村松下の開祖で、松下文右衛門尉定伸^{ぶんえもん}といい田地400石を領した。もともとは今川家の旗本で中泉(現在の磐田市)に居住し、天正2年(1574年)の高天神城の戦い^{ごぜんくるわ}のとき、御前曲輪に籠城した武将の中に松下平八の名がある。高天神城落城後、家康の近習を勤めたが、奉公をやめて農民になり、新野村の名主となって居住し、慶長4年(1599年)に没した(高天神城戦史)。そして、平八の嫡男文右衛門尉定綱^{ぶんぐらりようはく}の子どもたちが分家し、現在の間蔵、良伯、岩ヶ谷の三松下家ができたとされる。

大河ドラマ「おんな城主 直虎」
応援プロジェクト

照会 社会教育課 ☎0548⑥1129

Atomic

暮らしと原子力

臨時全員協議会で
国のエネルギー政策を説明

経済産業省資源エネルギー庁の佐々木雅人原子力発電立地対策・広報室長が6月2日、市議会臨時全員協議会の場で柳澤市長ら市幹部と市議15人に対し、国のエネルギー政策について説明しました。

これは、今年4月に、原子力発電を取り巻く状況についての説明を資源エネルギー庁へ求めた結果、実現したものです。

国からは、東京電力(株)福島第一原発事故や東日本大震災後のエネルギー事情、エネルギーミックス(電源構成)、資源戦略についての現状や課題が示されました。

市議からは、原子力発電の必要性やコスト、高レベル放射性廃棄物の最終処分場などについて質問がありました。

原子力発電は、国の「エネルギー基本計画」において、安全性の確保を大前提に重要



▲臨時全員協議会

なベースロード電源として位置付けられています。

市では、国や事業者に対して今後も状況説明を求めているとともに、国の動向を注視していきます。

※ベースロード電源・・・発電コストが安価で、昼夜を問わず安定的に稼働できる電源